



Eldonas KouMUKAV

2-12-2 Asahimachi 1, Abeno, Osaka,

30, Sep, 82.

No. 262

イオム通信

大阪市阿倍野区旭町2-12-2 向井 寿

◎ 10月1日、山田契三さんが、満期で塚利事務所を出た。早朝出勤のための前夜からまで泊つた契さんは、午後東京へ。

◎ 山田さんからきく、事務所内の人権じゆらりんの海まじさ、生々しさには、発することはもなかつた。

◎ それにしてもなぐヒ私服が20人近くぞろぞろついてきて、雨の中を一日中、路地の各所に立ち、文刻、山田さんの辞去と共に、まじ尾いていつた。

◎ 彼らが止まったあと、石段の下にすまられてあつた生じゆらの空をリコジエースをるコにはびつくりした。

反政治といふこと

▼ ことしの2月19日にもつた「スライド・東アジア反日武装戦線・南の軌跡を見る会」は、(東京の支援連の東阪に促されて、それに協力するという形でできたものだったが)、それにきたく四十名(うち東京五十六名)の殆どは、それなりに東ア:についての見解をもつ、(東アジア反日武装戦線に連帯し)①、あるいは異同を認めて支持支援し②)といった立場の人たちだったと云つてよいだろう。

▼ 9月5日のハラハラ大集会の実行委をつくる準備会を呼びかけるとき、その2月の参加者を中心に、監獄法反対など、過去の名目をつくつた約百人を対象にした。処が集つた24名の内2月19日の参加者の顔は五十六名(その後の実行委では、さうにハフマ・三々四々)だった。

▼ したが4月下旬、東京の支援連のFさんがきて、「東ア:の二審判決が9月下旬頃出る。その前後をめぐりに、数百人規模の大集会を大阪でひらきたい」という話をしたとき、ぼくがしばらくだまつていたのは、次のような判断からだつた。

① 例えぼくは100人位の呼びかけの名前はつくれる。報章の賛同入ということなら、20人ぐらいは集まるだろう。だが殆ど名目だけで、具体的な東集会実行委への(東ア:を形成するのはむずかしい。何かが出てきたとしても、船頭ばかりで漕ぎ手なし、立て前の議論に終始して、結局加らく80人集まつたら成功という程度になるのが眼にみえている。

② それにしても、推進力がある。何がなんでもハフマみよ。赤字がでたら、最悪の場合、自分ひとりでもかぶる。といった、自ら買つて出て起動力になり、困思を働かし、状況を憂える役を果す人面が。それを助けるという形で、最大の努力を傾けることなら、ぼくもゆれるし、やらねばならない。……

▼ この数年、その態度から2・19のときも一痛感して来たことだが、支援の向題として論じているときも、必ず「東ア:に対する評価というが、自分にとつての位置付けが絡む。そして彼らへ対する支持の、何がしかの留保、あるいは批判がまざる。その上での立て前のシンパシーが語られる。

つまりそのような①及び②の立場の、いわゆる政治的、なというか、反体制的立場を明らかにしている人達にとつて「東ア:」は、自分がかかえている課題、あるいは問題意識との関連がないかぎり(趣旨として立て前としての賛同はあ

つても)かまつて、東ア:を主眼とし、全的にそれをとりあげるといつた集会の推進者になるような積極性は、求めうべくもないということ。大いかにすれば「東ア:」を掲げて数百人を集めるといふ基盤が全くないその上に、何よりも頼みとしている人たちが裏は頼りにならないという向題が、まずある。

(又28の準備会の呼びかけが支援連から出されたことは、Fさんの話に同席したTさんOさん、そしてぼくの決意の未確定さといささかの成行きまかせ)示している。それ故9・5集会のそもそもの起動力が、全く東京の支援連に頼つたものだったことも)

政治的といふこと

▼ さて、結果として9・5集会は、それがきわめて政治的(すくなくとも公安整備にとつては見逃しえない)タイトルをかかげたものだったにもか、ならず、その参加者の90%は、今迄ほとんどの東ア:に熱心をもたなかつた、市民・住民層の、例之ば反戦とが反原発などの運動に多少の、わりがある。ようなくたちその家族、友人などだった。そして、

ふつらこの種の集会で過半数を占める、(政治的立場)をもつた人々は、一割にもみだぬ、わすかの二・三〇人ほどだつた。……

このことは、総体のなかでの政治的立場をもつ人々の層層を減小化、それらの人の軸となる党派の無力化(少数化)を示すことにも、「東ア:」にとつて従来から頼みとし、訴求の対象としてきた人たちの大部分が、前述した傾向において、なお運動(共闘)の積極的対象であるかどうかを考へさせるものだろう。

● 誤解をさけるため、判りやすくするため(政治的)といふ用語の意味を限定的にきめておきたい。→政治的立場をもつことは、現体制を否定し、それを変革する方向として社会主義(或はマルキシズム、アナキズム)的イデオロギー路線を把持して、党派又は組織的活動を核において運動している人。③ そのようなものをめざして活動している人。④ 活動しない人。⑤ それを信条とし、活動の支持支援をする人。……

▼ だが、政治的立場の主張は、自己と異なる他に対しては、最終的には自己立場への絶対的同一化(統一)を求め、分裂を許さない。それ避けようとして出てくる、一時的條件的(他との野合的)要因(いわゆる連合)→(その中で)の主導権への参入の深淺が、共闘



参加の熱意の度合となる。自己についての利害計算によるもの以上を求めたに明け出るべきではない。

▼そこで9・5集会に、政治的立場の入場が意外にすくなくかつた。ということは、もともと東アに対して、それほど積極的にならなくとも入場がなかつたことを含めて、更にその集会のやり方が、自己の政治的立場をよくに顕示しひろげる為に利用する、いわゆる政治的集会でない、という事、あるいはそれは市民的大衆集会でしかない、というふうな見方からひとつの理由を見出すことができるだろう。

▼へ東アジア反日武装戦線はまず、現支配体制に物理力で攻撃をしかけている、ということに於て、何よりも市民・住民運動とちがう。市民運動はかりに反権力的と云われようとも、本来、異議申立てであり、政治的には、政党を利用する一級会主義である。議会が頼みにならぬときは、更に大多数の市民を結集することでの入論形成を力とする。いわば、多数的になり、無関心層をひくめた一般大衆市民に根を持つことに目標と指向をおく入運動である。つまり、政治に従順させられていゝことを承認した上で、どのように従順するかは主体性を自分の手にしようとする運動と云つてもよい。

だから、か、自己目標、異議申立てが達せられたら、それで運動は終熄する。が一方、政治的運動の最終目的は、権力の交替であり、自分が直接に政治に介入し、新しく自分が支配する立場に立つことである以上、権力の打倒・相手の消滅まで、敵対的攻撃はつづく。

▼権力は、もちろんそのことを誰よりもよく判別し、知っている。市民運動的段階での市民に対して、権力の対応は一心のおどかし以上を出ない。手心を加えるのは、その首後の言論との関係、どちらがより大きく言論の承認をとりつけるか、を確保するからである。

が、敵対関係を明らかにした入政治的立場による運動と、その活動者、それを支持支援する者に対しては、権力側もまた当せん対立的であり弾圧的であり、法律で可能なかぎり攻撃的である。

▼9・5集会が、正々その裁判支援、被害者たちの救援というところだけに止まらず、何となくその集会に一般市民がたかさん来たとしても、権力にとつてはそれが、極の付きの入敵対的入政治的集会であることには変わりない。例之市民であろうとも、一人一人の集会の参加者となるかぎり、何をしたわけではなくとも、公衆設備の妨害とすることに間違いない。

そのように、過激派といわゆる市民とを、きびしく峻別して区分することが、弾圧のオースキである。市民社会の中で、東アを口にするのが憚られ、救援しろ、その周辺に近づくと、コワイ、といった気分が一般化し、それへの関心や詮索さえ自己規制するようには、市民と東アとの分断隔離こそが権力の狙い求める状況に外ならないからである。

▼それは、何よりも権力が判断しておきたいとする。東アと市民との関係を、より近づけたり狭げものとして設定された9・5集会が、権力にとつては政治的にきわめて敵対的意味のものとして、整備の神経をとがらせるのは、ゆえがなからずである。



は、ない。▼ところが、むしろ9・5集会の共催者であつて当選の、(1)の政治的立場をとる入たちにとつて、集会のやり方進めがすくなく市民的であり、また自分からやつてきた護成の入政治的集会と、全く會を異にしてのことにおいて、参画する場を見失つたことが、少数の参加となつてあらわれた、ということになるのだから。

へ反政治的ということ

▼ところで、好きの反対が、好きでない、嫌いだ、という、へ政治的の反対はへ非政治的ではない。へ反政治的である。そしてへ反政治的は、へ政治的との開いのす、め方においてへ非政治的であるという入政治的立場をあらわす、きわめて政治的な意味であることは、なつてもない。

9・5が、権力にとつてそれが敵対的入政治集会の意味を持ち、その一方いわゆる政治的立場をもつ入たちにとつての、見做るへ政治的集会たりえなかつたという不満の理由は、このへ反政治的という一頁にある。そして9・5集会が、いわゆる今迄のこの種の集会の概念を二変し、さらに一般市民集会のようなものとも、いさゝか趣きを異にしていたのは、何よりも、それがいまだかつて創り出されたことのないへ反政治的集会を見体化しようとするものだからである。

▼市民ノンポリー政治からい入運動への党派介入排除という形式は、過去のさまざまな経験から、今は市民運動の常識であり、さらに「過激派キャンペーン」は、一そう草の根運動をへ政治的の支配や権力との、直接的開いから遠ざけている。そして、現存する政治はへ支配としてへ権力として、日々日常の上に君臨し、侵透しながら、ほとんどの眼にみえる姿としてはあらわれない。

▼9・5集会の性格が、何よりも反政治的だということ、まず示すものとして、その主催者がある。即ち「四つの立場」のへ自由連合の単正、名符だけとして、集会のやり方、進め方のなかで見体化されたことにある。

▼へ政治的とは自己への、求心的な方向を、他者につくり出すための働きであり、へ同結を価値の旗げるとするへ統一、いいかえればへ集束へへ強制してへ支配の完備さをへ力とする意向である。それは、ばくちの運動を、抜きがたく捕まえる、それに対して、へ反政治は、本来のへ多義的なものをそのまま、相互に承認することによつてつくられるへ連合が、相互に及ぶへ外延性、へひろがり、へ共に属するへ多様性の中、へ自己をも加えることでのへ力である。

▼9・5集会におけるごく少数の入政治的立場の(1)のへ自由連合を承認したこと、即ちへ自己への統一を他に強制せず、それを聯合的連合としなかつたことにおいて、はじめ(1)のことは、(2)とくに、大多数の(4)の立場をも、自己の入多様な力とせしめたのであり、そのようにして、へ自由連合、へ権力に対するきわめて政治的、一たりたのである。(未完)

○イヌム確率希少の方は6月14日午前11時45分、東京の自由新聞社で...